

人生ハンド仏句

第13号

H. 15. 4. 1
(毎月1日発行)

編集・発行
玉蓮山
寺部
成集
真編

四月の月訓

住職 谷川 寛俊

信仰の第一歩は「感応道交」に

かんのうしやうきやう

あります。感応道交とは神仏と衆生の交融をいい、衆生に「感」(求める心)があれば神仏は必ずこれに「応」(慈恵の力を現わされる事)をいいます。「感」は宗教行事への積極的参加、すなわち「縁」によって培われるものです。

人間性の向上が叫ばれながらも、日常生活の繁忙に心の余裕を失い、信仰どころではないという昨今の風潮の中、私達はまず原点に立ち戻り、この「縁」を改めて見直し大切に作る心構えが必要であると思えます。それには先ずお寺参りから始めなければなりません。お寺へお参りになり、手を合わせ、お経を読み、お題目をお唱えする時に、「日蓮聖人さまのお顔を見な

がら拝んでください。」

自分が困った時には、日蓮聖人さまが困ったようなお顔をされており、うれしい時には楽しいお顔をされているような気がします。そのときの気持ちを日蓮聖人さまが同じ様にあらわしてくださっているのです。

お寺とは、「十」「一」「寸」と書きます。現在、自分のしている事や心構えなどが、人として「十(テラス)」か「一(マイナス)」か「一寸(ちよっと)」と考えて見るところなのだそうです。日蓮聖人さまが教主釈尊の出世の本懐は人の振舞いにて候けるぞ。賢き人と云ひ、はかなきを畜という。

(崇俊天皇御書)

「お釈迦様の説かれた教えの最終目的は人としての生き方、振舞い方です。「十」に生きていくのを人といい、「一」の生き方をしているのを畜生みたいである」と教えられます。」

今、自分がやっていることが道にならなっているかどうか、どうぞお寺にお参りになり、心を落ち着けてお題目をお唱えし、日蓮聖人さまのお顔を拝み「ちよっと」考えてみてください。

さて、今月も先月に引き続き恩師の訓話をご一読下さい。

□ 大平無事であるぐしやうれいじんと具生靈神(毎月のお守り様)のご守護を忘れる。ご守護を忘れると信心を怠る。信心を怠るとご守護が衰える。ご守護が衰えると悪事災難がやって来る。そこで初めて気が付いて不信心を反省すればよいのであるが、逆にお題目にご利益は無いと疑うようになる。

◆ お題目を疑うと、他にもっと有り難いものはないかと迷うようになる。一度迷いだすと気が無い。世の中にはそういう迷った人を食い物にする、いかかわしい宗教がたくさんある。それに引つかかってよい食い物にされる。やがて飽きて又他の物を求める。

◆ 人間は前世に何をしてきたか知らない。また災いの種を忘れて、幸福だけを刈り取るうとして、その事を承知していれば間違いないのである。お題目の靈験を確く信じ、具生靈神に身を任せていれば、何があっても結局幸せになれる事は間違いない。

水のころろ
水のようにいきいきと
水のようにカブよく
水のようにこだわらず